

1. 学歴

- 1974年 3月 一橋大学経済学部卒業
1978年 9月 London School of Economics 経済学部博士課程入学
1981年 8月 同課程修了, 経済学博士号取得

2. 職歴・研究歴

- 1974年 4月 日本銀行入行
1987年 - 1989年 Brookings Institutions 客員研究員
1992年 - 1995年 日本銀行ワシントン事務所長
1995年 - 1996年 日本銀行国際局総務課長
1996年 - 1998年 日本銀行鹿児島支店長
1998年 - 2000年 日本銀行政策委員会室審議役(国会渉外・政策広報担当)
2000年 - 2003年 日本銀行在ニューヨーク米州駐在参事
2003年 - 2005年 日本銀行企画室審議役(金融制度担当)
2005年 日本銀行金融研究所審議役
2005年 4月 一橋大学経済学研究科及び国際・公共政策大学院教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(b) 大学院

Monetary Policy in Japan, Financial Sector Reform and Development, 金融論

B. ゼミナール

国際・公共政策大学院アジア公共政策プログラム

C. 講義およびゼミナールの指導方針

講義においては, バブルの発生・崩壊, 更にその後のデフレにおける金融政策運営, 世界的な対外不均衡, サブプライムローン問題を発端とする世界的な金融危機と実体経済のスローダウン, 新しい金融システム安定化の枠組み等をテーマとして, 理論的な枠組みと現実の政策の相互関連といった視点を中心に説明する。ゼミナールにおいては, アジアの政策当局から派遣されている若手官僚が自国経済を理論面から分析し, そうした分析に基づき政策的評価を行い, 政策運営能力を高めていく方向で指導している。講義及びゼミナールにおいて, 金融・財政政策といったマクロ経済政策や金融システム改革に関連した具体的な事例を取り上げ, 理論面や制度面から批判的な検討を加え, 実践的な政策提言を行えるような人材の育成を目指している。

4. 主な研究テーマ

(1) 金融政策の運営と金融システムの安定との関係

金融政策の目標である物価の安定を達成するためには、金融システムの安定が不可欠であるという認識は政策当局者の間で共有されつつある。更に、金融システムの安定には資産価格の動向が大きな影響を与えている。そうした状況下では、金融政策の運営の中に資産価格をどの様に織り込んでいけば良いのかということは重要な政策的課題となっており、そうした課題について研究している。

(2) 金融政策におけるコミュニケーションと中央銀行の信認

中央銀行の信認を維持し金融政策の有効性を確保するうえで期待の果たす役割は大きくなってきている。中央銀行が金融政策を運営する際に、市場や一般国民にどのようなコミュニケーションを行っていくかということは期待の形成に大きな影響を与えている。信認を高めるような期待の形成のためのコミュニケーションのあり方、それを支えるような組織的な、あるいは政策的な枠組みについて研究している。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

The Duration of Jobs in the USA and Japan. Ph. D. Dissertation, London School of Economics, 1981.

(b) 論文(査読つき論文には*)

"The Internationalization of the Yen and Its Role as a Key Currency," *Journal of Asian Economics*, Vol. 4, No. 1, 1993, pp. 153-170.

"Japan's Stock Market: Lesson from the Recent Boom and Slump," *Journal of Asian Economics*, Vol. 6, No. 1, 1995, pp. 119-131.

"Financial Stability in Southeast Asia," *Journal of Asian Economics*, Vol. 9, No. 2, 1998, pp. 227-235.

(c) 翻訳

レイヤード＝ウォルターズ, 『ミクロ経済学』, 小平裕, 細見真共訳, 創文社, 1982年。

6. 学内行政

(a) 役員・部局長・評議員等

役員補佐(国際交流)2008年12月 - 2010年12月